

西深川橋

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋
 架設年次：昭和5年2月
 所在地：江東区森下三丁目から
 白河一丁目間小名木川に架かる
 橋長：56.1m
 幅員：13.9m



現在の様子



現在の様子

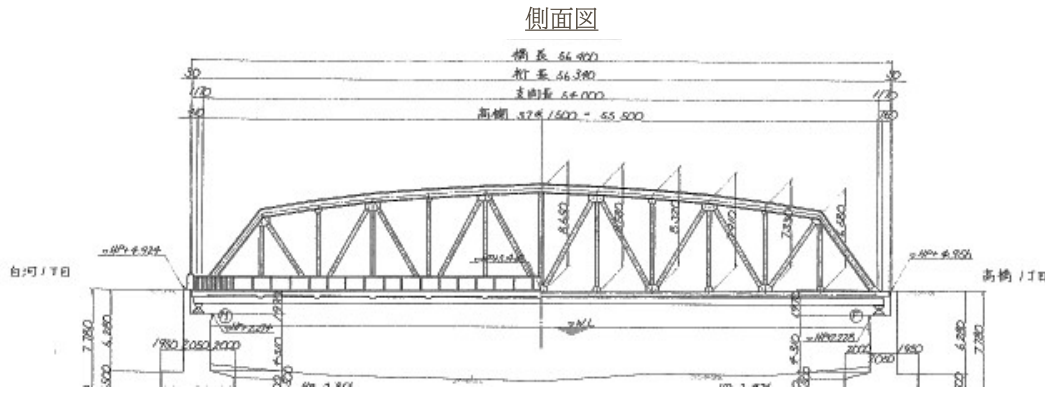


昭和53年撮影

西深川橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

ワーレントラス（トラス=構）は、トラスの一種で、斜材の傾斜の方向を交互に変えたトラスのことです。James Warrenが発案したことから、この名称で呼ばれています。



景観整備工事について

平成2年に行き交う人の「安らぎ」をテーマに景観整備工事を実施しました。

橋台敷には、魚を題材にしたモニュメント「ゴンベッサ」を設置し、水陸両面からのランドマークとしました。また、橋名塔は、モニュメントのシーラカンスと同時代のアンモナイトをヒントにしており、太古の生物から心の安らぎを得られます。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

震災復興橋梁について

大正12年（1923年）9月1日の午前11時48分、神奈川県西部（または千葉県北西部）を震源とするマグニチュード7.9の大地震（大正関東地震）が発生しました。

震災前、東京市の橋の大部分は木橋で、多くの橋が被害を受けました。震災直後から昭和5年（1930年）にかけて、復興事業の一環として架けられた橋梁は「震災復興橋梁」と呼ばれています。

東京市に架けられた「震災復興橋梁」の数は、8年間で約400橋で、江東区域にも多くの「震災復興橋梁」が架けられました。

一部の橋は、改修や撤去を要しながら、現在も都市の交通を支えています。

西深川橋の概況

橋梁形式：一径間ワーレン鋼構橋

橋長：56.1m

橋幅員：13.9m

架設年月：昭和5年2月